14　次の文を読んで、後の問に答えよ。〈京都大〉　二〇一四年度出題

　嵐にゆれ動いている木や、波立っている海を見て、あの木のゆれ方はあまり良くないとか、波の形がなっていないとか批評する人はいない。同様に優れた作品は、作家の手つきが見えないままに、読者をのめり込ませる。傑作はつらなり合うものが動いて、吹く風に似た音をたてる。

　創作という言い方があるが、作家は何もないところから何かを創り出すわけではない。自分の力で創り出すというよりは、思わず知らず、えたいの知れない力に押されてそうなってしまう時、その作品は比較的まともなものである。

　また、べつの言い方をすれば、創作とは、何かを創り出すというよりは、そこにもともと埋まっているものを掘り出す作業なのだ。もともとそこにないものは、いくら一生懸命掘っても突き当たらないし、下手な掘り方をすれば、像の形が欠けたり壊れたりすることもある。

　つまり、自分の掘り当てたい像はどこに埋まっているか、また、どのような掘り方をすればよいのか、というようなことが、作家の作業なのだろう。

　わたしはいつのころからか、文学は、生活の中にしか埋まっていないと思うようになった。（１）生活の中にかかる虹の橋づめに埋まっている金の壺がわたしの文学である。

　恋人たちが輝く目とバラ色の頰でほほ笑むとき、彼らは虹の橋づめに立っているのだし、うずくまってすすり泣く幼児の足の下にも金の壺は埋まっている。怒る人、闘う人、不可思議な衝動にかられて立ちすくんでいる人、そうした人の背後には必ず虹の橋がかかっている。

　この人間社会で、言いたいことを言えずに、口ごもって生きている人びとが、何かのときにふとらしてしまう言葉は無数の水滴になり、太陽の光が当たると虹の橋になるのだ。

　わたしは、生きているうちにめぐり会った人びとのいた言葉を拾い上げて、小説を書いているから、めぐり会った人びとはわたしの文学世界を築いてくれた恩人である。作品は自分の力で創り出すわけではないとは、そういうことだ。

　自分を文学の専門家だと思い込んでいる人たちの言葉は、ほとんど、わたしの心を打たない。文学に限らず、どんな道でも同じだと思うが、その道で一級の人たちは、自分をその道の専門家だとは思っていない。一級の人は、自分のやっていることを、自分の人生だと思い、話をするときは、自分の人生の話をする。

　彼は、彼のまわりにうごめいているものをじっと見つめ、「自然」の中にひそんでいるものを自分自身の中に見つけようとする。

　芸術家は独創的であらねばならない、といった言い方があるが、これは浅薄に使われやすい言葉である。たとえば、昼間は眠って、夜目ざめて仕事するのを独創的だと思ったりする。それはただ、珍しい習性が、なんらかの理由でつけられてしまっただけの話である。この習性をこっけいで悲劇的だと思うのは芸術家の感性だが、独創的だと思う人は、芸術家の素材となるに適した人である。

　（２）芸術家にはこの種の独創性は必要ではない。必要なのは「自然」が内包する生命である。そこにある生命を掘り出すのが芸術家で、芸術家は生命を無から創り出すわけではない。

　わたしがまだ世間に作品を発表していないころ、そして、わたしが文学についてひと言も語らないころ、わたしを「自然」から何かを掘り出すことのできる人間として扱ってくれた二、三の友人がいたが、そういう人たちは真正の芸術家だった。つまり、彼らは、独自の作品世界ともいうべきものを持っていた。「自然」を映した彼らの生活そのものが芸術品だった。

　彼らの人生にまつわる独特の表現の中には、それをそのままテープにとっておけば、立派な文学作品になるものがあった。そして、わたしは今でもそれらの話を思い出して、つづり合わせて小説を書いているに過ぎない。

　作家として暮らし始めると、人びとの何げない言葉を聞く機会が少なくなったような気もしている。

　小説に書いてもらいたくてする人の話や、書かれまいとして用心している人の話は、あまり面白くないのが普通である。

　そういう話には、吹く風の音がない。また見上げても、決して虹はかかっていない。もちろん、金の壺も埋まっていない。

（大庭みな子「創作」）

問１　傍線部（１）はどのようなことを言っているのか、説明せよ。

問２　傍線部（２）はどのようなことを言っているのか、説明せよ。

◎問３　作者が本文中で用いる「自然」はどういうものか、芸術家との関係を踏まえ、説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　Ａ精一杯人生を生きる人々がふと吐露する呟きを拾い上げ、Ｂその奥に秘められた表現しがたい様々な思いを言葉にするところに、Ｃ筆者の文学が形成されたということ。

Ｂがなければ全体０。

Ａ＝４／Ｂ＝４／Ｃ＝２

問２　芸術家は、Ａ無から創造するわけではないので、Ｂ日々生活する中で感じたことを捉えて表現することが必要であり、Ｃ単に人と違うだけの特異性は必要ないということ。

Ｃがなければ全体０。

Ａ＝２／Ｂ＝４／Ｃ＝４

問３　Ａ「自然」とは、喜怒哀楽さまざまな思いを内包した人生のありのままのことであり、Ｂ芸術家が、そこから創作の源泉を繊細に感じ取り、作品として結実させるもの。

Ａ＝５／Ｂ＝５